

有明鉱大災害で——会社へ

炭労調査団が申し入れ

炭労保安調査団(団長・橋本亮炭労副委員長)は、有明鉱の坑内火災の原因を究明し、今後の保安対策確立のために三月五日、取り明け後の火災現場を点検調査し、翌六日三池鉱業所につきのよう申し入れをしました。

当調査団は、今回の有明鉱の坑内火災に際して、その原因を究明し、今後の保安対策の確立に資するため、三月五日、同炭労発生箇所を中心とした一帯について点検調査をおこなった。この結果、つきに示すように、

① 今次坑内火災の火源および八十三名のぼる大量の死者を出した原因は、このうち火災原因のなかに、必ずしも限定するに足らない結論に到達するに、

② 今後またたびのような大惨事を繰り返さないための保安対策強化の方向について、考え方を取りまとめたものである。

したがって貴方におかれては、当調査団のこれらの指摘を十分に受け入れ、今後の保安対策の強化に万全を期すよう要望するものである。

原因について

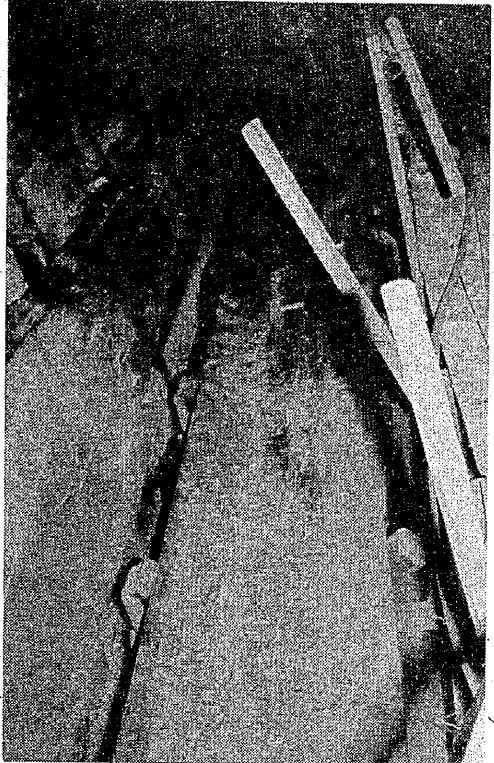
1、火源について

(1) 二百一十メートルBC連絡斜坑No10BC終端部付近で発生した坑内火災の火源については、一般論的には自然発火、ケーブル切断によるスパーク、BCと固形物との摩擦熱が一応考えられるが、点検調査の結果、前二者についてはこれが火源となつたと判断しうる材料は、何一つ発見されなかった。したがって、BCと固形物の摩擦熱が蓄積され、可燃物に着火させたのが至当であると判断された。

また、発火箇所は上記箇所付近に設置された第三風門(箱門)、坑道成木等の焼失状況からみて、

2、被害を拡大した原因

当調査団による点検調査、貴方からの状況説明その他から判断す



発火箇所はNo10BCの終端部(第三風門附近)と見られているが、写真はNo10BCを、風上の第一風門の手前から写したもので、この先の方が焼け落ちている。

ると、坑内火災発生時の第一報が監視制御指令室に入った以降(一月十八日午後一時五十分以降)、指令室が退避誘導措置がきわめて不適切であつたうえ、消火設備の不備から初期消火に失敗するなど、事態が重なることが、八十三名におよぶ死者を出した第一の原因と考えられる。

これは換言すれば、緊急事態の発生に対処する貴方の判断が、きわめて甘かつたことを示すものといわざるを得ない。

具体的には、つきのような不備が指摘されると判断する。

- (1) 災害発生箇所付近の消火栓に十分な注水が停電により不能となつたことなど、いろいろな状況を想定して、これが十分対処できる消火設備体制が確立されていなかった。
- (2) 指令室の退避命令の発動がおくれたうえ、退避経路の指示についても不適切であつたこと。
- (3) 消火訓練の実施(係員だけでなく、状況判断し難居ることに、より相当数の人が被害を免れたこと)による消火訓練の実施、要すれば「消火隊」の設置

3、保安機器の完備

COセンサー、煙感知器の大幅増設による火災等の早期発見体制の確立。

また、坑内誘導無線、電話の増設。

4、防災施設の完備

救急センター、ビニールハウス、救急バルブの設置、救命器の備えつけ。

5、退避訓練の強化、退避経路の明示

実践に即した退避訓練を実施すること。この場合、抜き打ちで訓練を実施すること。

また、あらゆる状況を想定した机上訓練を保安技術職員各階層にわたって実施し、万一の場合迅速、適切に対応できる体制を確立しておくこと。

さらに標示板により退避経路を明示すること。

- 1、BC管理体制の強化
 - (1) 係員、ベルト番による巡回点検の強化
 - (2) ベルトの片寄り防止対策の確立
 - (3) 風門、とくに箱門の構造改善、要すればこれの廃止
- 以上

なお、炭労調査団のメンバーは橋本炭労副委員長、藤原炭労事務局次長、北川道炭労事務局次長、野崎高島炭労保安部長、橋本炭労書記、森田三池炭労組組長、中原三池炭労組書記長、田口三池炭労組労働部長の九人でした。



年金制度改悪阻止にむけて、池の端文化センターの集會に結集した動員団。

一月二十五日、社会保険審議会が提示された厚生年金問題の全見直しと廃止が挙げられ、地下産業者労働者に対する深刻な影響が懸念される状況になっています。

このような厚生年金改悪を阻止するために結集した地下産業五単産(炭労・非鉄金属労連・全炭鉱・資源労連・炭職協)の第二次中央集會が三月一日に開かれました。

午前十時三十分から東京・池の端文化センターで、五単産の動員団百七十人(炭労から三十人、三池からは松岡厚生部長が結集して開かれた中央集會では、炭労政治局をはじめ各政党、労働界から総評・同盟・全民労協、さらに石炭協会、鉱業協会なども来賓として出席し、それぞれ連帯のあいさつを述べました。

集會は、『厚生年金第三種被保険者制度の改悪に反対する決議』を満場の拍手で採択し、今後五単産が一体となって第三種制度の存続にむけてたたかいを推進して

午後からは、野田委員長をはじめとする五単産代表者が、参議院内で渡辺厚生大臣と交渉し、「坑内労働者は、きびしい作業環境や職業病などたたかいたいがながら体力の限界まで従事している実態を理解され、地下資源産業者を守る上からも第三種制度を存続を」と申し入れました。

これに対し厚生大臣は、「よくわかつたので種々検討したい」と答えたにとどまりました。

交渉報告を受けた動員団は、そのあと各代表者による各政党への要請行動を行ない、その他の炭労動員団は午後二時から社会文化会館で開かれた、春闘共闘主催の医療・年金改悪反対総決起集會(約千人)に参加し、この日の行動を終えました。

今後の取り組みとしては、法制化段階での国会対策が重要なポイントになるので、社会労働委員会を中心とする国会対策への対応を強めていくことになっています。

グラフ解説 ④

84春闘の課題

企業の利益は上れど.....

経常利益(1975年=100)	1982年—395
平均賃金(1975年=100)	1982年—163

笑い止まらない気分は最高!

社長、これじゃああんまりだア

企業の経常利益は一九七五年を一〇〇とすると、八二年には三九五、つまり四倍近くにふえています。ところが、労働者の平均賃金は、同じ期間に一・六三倍にしかなっていない。この間の賃金抑制がどんなにすぎまじいものであつたかが、このことにはつきりとおられていきます。八四春闘カンパーン(連合)

経常利益三月期は九・四%、一年後二〇%と日経紙。春闘最中にそんな数字は困る。経営側。

三つの目の目

海洋はいまや米の核搭載艦船の暴れ回る舞台、と米国の民間機関報告。海洋核戦争時代。

政党法浄土、田中問題すり替りに懸命の自民。時はよこよ、目白の田中御大も、始動。へ。

【連合】

年金(第三種)改悪阻止へ

一五単産百七十人が結集